

令和7年11月6日(木)

魚沼きこえの教室だより

令和7年度 第7号

長岡聾学校小出分教室（小出特別支援学校内）

きこえの教室 担当：小池 豊

〒946-0035 魚沼市十日町 1738-2

TEL:025-792-5462 fax:025-792-5465

Email:koike.yutaka@nein.ed.jp

日頃より小学校や中学校で学んでいる難聴児童生徒へのご理解とご支援、誠にありがとうございます。今回は、「難聴者」ではなく、私たち「聴者の行動様式」について、考えてみたいと思います。



「聞きながらメモをとる」という行動について

人間の脳は、視覚・聴覚・触覚などの異なる感覚情報を並行しながら処理することができます。例えば、ある教室では、「説明を聞きながらメモをとる」あるいは「タブレットの操作をしながら説明を聞く」とった処理が当たり前のように行われています。これを、『並行処理』と言います。これは聞こえることが当然の聴者にとっては自然な振る舞いで、特に意識されることはありません。しかし、難聴者にとっては、大変難しい対応と言えます。想像をしてみてください。聞こえにくい子どもたちは、説明を聞き漏らすまいと、先生の声だけでなく目線や表情などに注目しながら懸命に聞いています。したがって、メモをしたい大切なキーワードがあったとしても、目をそらした途端に聞き漏らしてしまうかもしれません。同じように、タブレットを電子黒板に繋げながら急に始まった先生の指示は、聞く構えのできていない難聴児に届くことはありません。つまり、「～しながら～する」という聴者にとっては効率のよい行為であっても、難聴者にとってはアクセスしにくく、情報を上手く処理できないという事態になるわけです。そこで、あらためてお願いしたい合理的配慮は、次のようなものです。これらは、並行処理の苦手な他の子どもたちにも有効なユニバーサルデザインの授業づくりとも言えます。

ポイント

合理的配慮① (×) 「～しながら～する」 (○) 説明と作業を分ける

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| ・板書しながら、説明をしない。 | ⇒板書が終わった後、説明を始める。 |
| ・移動しながらの指示等は、少なく。 | ⇒静止してから、難聴児に正対して話す。 |
| ・機器の操作をしながら、指示を出さない。 | ⇒機器の準備を終えてから、指示を出す。 |
| ・ノートを書いている途中で話し掛けない。 | ⇒ノートを書き終わってから、視線を合わせ話す。 |



身近にある難聴② (ヘッドフォン難聴)

スマートフォンや音楽プレイヤーなどで、長時間にわたり、ヘッドフォンやイヤホンを使用する若者が増えています。2019年、こうした傾向を受け、WHO（世界保健機関）でも「難聴のリスクが高まっている」と警告を発しています。聴力の低下や中途失聴など、気になるお子さんがいる場合は、難聴の程度にかかわらず、ぜひご相談いただきたいと思います。早期のケアや支援が求められています。

ヘッドホン難聴は、ヘッドホンやイヤホンを使って大音量で音楽などを聞き続けることにより、音を伝える役割をしている有毛細胞が徐々に壊れて起こる難聴です。**ヘッドホン難聴**は、じわじわと進行し、少しづつ両方の耳の聞こえが悪くなっていくため、本人が難聴を自覚しにくいことが特徴です。耳閉感や耳鳴りを伴う場合もあります。重症化すると聴力の回復は難しくなるので、耳の違和感に気づいたら早めに医療機関を受診することが大切です。 e-ヘルスネット（厚生労働省）より